

授業評価の集計結果（科目別）の見方

この集計結果は、授業改善のヒントを得ることを目的に学生による授業評価の結果をまとめたものです。まずはじめに集計結果の構成から説明します。

具体的な授業改善への活用例は2頁以降に掲載されています。

集計結果の構成

集計結果は、次の5つの項目から構成されています(図を参照)

- 学生の学年・所属の内訳
- 質問別平均値と総合評価との相関係数
- 科目区分における評価結果の分布
- 質問別集計結果の内訳
- 質問別集計結果の比較

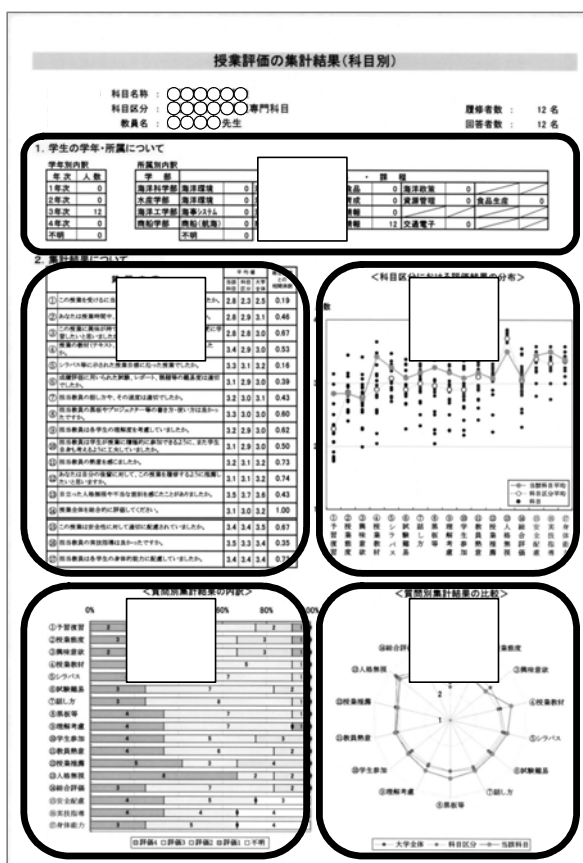


図 授業評価の集計結果

各項目の内容

各項目では、次のような結果を読み取ることができます。

学生の学年・所属の内訳

当該科目の授業評価を行った学生の内訳です。

質問別平均値と総合評価との相関係数

質問内容、平均値、相関係数の3つから構成されています。

・質問内容

次の質問から構成されています。

1. 学生の勉学態度（質問 と ）
2. 授業の内容、教員の教授技術（質問 から ）
3. 教員の教授態度（質問 と ）
4. 学生の満足度（質問 と ）
5. 実験・実習用の質問（質問 から ）

なお、集計結果の他の項目□、□、□では、質問内容を4文字以内の単語で表現しています。質問内容の全文を見る場合は、ここを参照して下さい。

【注意】

各評価は、4段階評価で、4が「良い場合」です。また、質問の人格無視は、「ない場合」が4です。

・平均値

各質問毎に、当該科目、当該科目の属する科目区分^{注1}、そして、大学全体の平均値を示しています。具体的な平均値を知りたい場合は、この欄を参照して下さい。

・相関係数

総合評価（質問 ）と各質問の相関係数を示しています。学生の総合評価につよい影響を与えているのが、教員の教授技術や教授態度の中のどれであるかが分ります。

相関係数は、-1から1までの値をとり、絶対値が1に近いほど、相関が強い、この場合、総合評価につよい影響を与えている質問内容と見ることができます。授業評価の場合、相関係数が0.6より大きい場合を影響がつよいと解釈するとよいと思います。従って、授業改善策としては、相関係数が高く、評価の平均値が低い質問内容について改善するのが効果的です。

【注意】

相関係数は、当該科目の相関係数です。また、回答者数が少ない場合、目安として10名未満の場合は、相関係数の信頼性が低くなりますので、大学ホームページに掲載される大学全体の結果^{注2}を参考にして下さい。

科目区分における評価結果の分布

当該科目の属する科目区分の中において、当該科目の評価結果の相対位置が把握できるように、科目毎の評価結果の分布を示した図です。他の科目との比較から自身の教授技術に関する得手、不得手が把握できます。

質問別集計結果の内訳

各質問毎の評価結果の内訳を百分率で表しています。

なお、図中の数値は、各評価毎の回答者数です。

質問別集計結果の比較

集計結果項目 の3つの平均値をレーダーチャートで示しています。円が大きく、面積が広いほど、評価の高い授業となります。当該科目の評価結果の全体的な傾向を把握するのに利用して下さい。

*注1：科目区分

各科目を授業内容にあわせて次の一覧表に示す27の区分に分けています。他の科目との比較から改善ヒントを得るためには、より授業内容の近い科目との比較が望ましいためです。

従って、教務上の科目区分とは異なっていますので、注意して下さい。

表 科目区分の一覧表

	科目区分 コード	科目区分名
1	10	全学共通科目
2	11	人文・社会〔品川〕
3	12	人文・社会〔越中島〕
4	13	外国語〔品川〕
5	14	外国語〔越中島〕
6	15	自然科学〔品川〕
7	16	自然科学〔越中島〕
8	17	体育〔品川〕
9	18	体育〔越中島〕
10	20	海洋環境学科〔海洋科学部〕専門科目
11	21	海洋生物資源学科専門科目
12	22	海洋食品科学科専門科目
13	23	海洋政策文化学科専門科目
14	24	海洋環境学科〔水産学部〕専門科目
15	25	海洋生産学科専門科目
16	26	資源育成学科専門科目
17	27	資源管理学科専門科目
18	28	食品生産学科専門科目
19	29	その他専門科目
20	30	海事システム工学学科専門科目
21	31	海洋電子機械工学学科専門科目
22	32	流通情報工学学科専門科目
23	33	商船システム工学課程専門科目
24	34	流通情報工学課程専門科目
25	35	交通電子機械工学課程専門科目
26	40	その他〔品川〕
27	41	その他〔越中島〕

*注2：授業評価Webページ（予定）

大学全体及び学部別等の授業評価の集計結果は、大学ホームページの下記の項目から見るすることができます。

- ・キャンパスライフ
- ・在学生のみなさまへ
- ・情報公開

なお、直接のURLは、下記のとおりです。

東京海洋大学 「学生による授業評価」

<http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/johokokai/jhp/hyosi/newpage23.htm>

授業改善への活用例

授業評価の集計結果を用いた授業改善例について、次に示します。なお、ここで示される例は、一例であって、これ以外にも様々な改善策が考えられます。

学生の満足度

[質問] 総合評価

まず、学生が当該科目の授業に対して満足していたか質問 を見て下さい。

授業という教育サービスを学生に提供していますので、ある程度、3.0以上はほしいところです。

しかし、娯楽を提供しているわけではありませんから授業によっては低くなる傾向にある科目も存在すると思います。この場合、当該科目を学ぶことの意義を説明し、学生の理解を求める必要があります。この参考となるのが、質問 の評価です。この評価が高くなるように、授業計画を練り直し、授業目標を授業のはじめに丁寧に説明するとよいと思われます。

[質問] 授業推薦

総合評価（質問 ）との相関がもっとも強いのが、この後輩への授業履修の推薦（質問 ）です。履修してよかったと学生が実感し、後輩達に推薦したい科目と思われるような授業を目指しましょう。

積極的な学生の履修が増えることは、教室の雰囲気をよくし、授業全体のレベルアップにもつながります。

人格無視

[質問] 人格無視

人格無視がない場合、評価4となります。従って、この評価は限りなく4に近くなければなりません。不当に感じるのは、多くは問題場面に遭遇したごく一部の学生です。従って、この評価が3.5以下となる場合は、学生によって対応態度を異にしていまいか注意して下さい。レポートの提出ルールや成績評価基準をあらかじめ明確に定めておくことが一つの方法としてあります。

授業の内容、教員の教授技術

（全般）

[質問 から]

評価結果の分布（集計結果項目□）を見て下さい。全体的に各質問の評価が高い、あるいは低いという傾向の他、一部の質問について、評価が高い、あるいは低い場合があります。

特に、黒板の使い方や話し方（質問 と ）といった教授技術には、技術力の差が現れやすいようです。相対

的ですが評価結果の分布（集計結果項目□）から自分自身の得手、不得手な教授技術が明確になります。他の教員の授業を参観し、自分との違いを見比べてみるとよいと思います。

FD 委員会で、授業参観の機会を提供できるように、別途、検討中です。

（個別）

[質問] 理解考慮

大学全体の集計結果を見ると、学生の理解度の考慮（質問）が、総合評価（質問）との相関が強いことが分ります。何を話しているのかわからない授業は面白くないというのは当然の結果です。

しかし、総合評価を高くするために授業内容のレベルを下げてしまっただけでは、そもそもの授業目標を達成できず、本末転倒です。そこで、学生の勉学態度（質問と）を見て下さい。ここの評価が低い場合は、学生に予習・復習をさせる工夫をするとよいと思われます。少し手間がかかりますが、授業のはじめに前回の内容について小テストをする例などがあります。

また、当該科目の試験結果と理解度の考慮（質問）とのギャップについても検討してみてください。

試験結果が悪いのに、理解度を考慮していると学生が感じている場合は、教員と学生の間で、授業において修得すべき内容の認識が異なっている可能性があります。この場合、授業のはじめとおわりに、修得すべき内容の確認をしておくのがよいと思われます。

[質問] 興味意欲

近年の学生の傾向の一つに、興味のあることは困難なことがあってもがんばれるけど、興味のないことは避けるというのがあります。従って、この質問の評価が低い場合は、学生が興味を持てる工夫をすることによって、学生が積極的に授業に参加し、全体の評価がよくなる可能性があります。

興味を持たせる例としては、抽象的な話だけでなく、身近な実例をあげて説明すると興味を持ち、理解もしやすいようです。

また、関係する学問の歴史的発展についてふれるのも知的興味を高めるようです。

[質問] 話し方

話し方やその速度は、教員の個性が顕著に現れますが、評価に影響する大きな要因としては、次の点があるようです。

- ・声が小さくて聞こえない。
- ・早口で話していて、メモをとれない。

この点に注意して、大きな声で話し、説明の後、メモをとる時間をとるようにするとよいようです。余談です

が、そもそもメモをとらない学生が多いため、まずは、メモをとるように注意して下さい。

なお、学生がメモをとる時間をとっていると授業の進行速度が遅延気味になる場合は、講義ノートのコピーを配布しておくとういようです。これによって、学生がメモをとる負担が軽減され、講義の進行を早めることができます。

授業教材（質問）の評価が低い場合は、検討してみてください。

[質問] 学生参加

学生の思考力を高めることに重点をおいている授業では、質問の評価が高いか見て下さい。この評価が低い場合、特に、ディベート形式の授業では、学生のテーマに関する知識が不足していることが考えられます。

そもそも人前で発言できない学生が多いため、まずは、発言するための準備をさせることから授業改善を行ってみて下さい。例えば、学生の理解度（質問）が低く、かつ、予習（質問）の評価が低い場合は、シラパスの見直しをする他、あらかじめ予習を行って授業に臨むように指導してみてください。

教員の教授態度

[質問] 教員熱意

あなたは担当教員として、楽しんで授業を担当していますか？

大学全体の集計結果を見ると教員の熱意と総合評価との間につよい相関があることが分っています。つまり、担当教員がつまらなく授業をしていると学生自身も同じく授業をつまらないと感じるようです。

必ずしも希望しない科目を担当している場合もあると思いますが、授業を担当する主演俳優として、熱演してはいかがでしょうか。

さて、今学期のあなたは、アカデミー賞にノミネートされたでしょうか？

最後に、我々授業評価小委員会は、教員の皆様の授業改善の支援策を色々と考えていきたいと考えております。忌憚のないご意見、ご要望等、お寄せいただければ幸いです。

連絡先：教務課

担当者：教務課長補佐 丸山雄光

電話：0393

E-mail：ky-hosa@s.kaiyodai.ac.jp